

株主通信

2nd Quarter Business Report

第75期 第2四半期報告書 2011.6.1 ▶ 2011.11.30

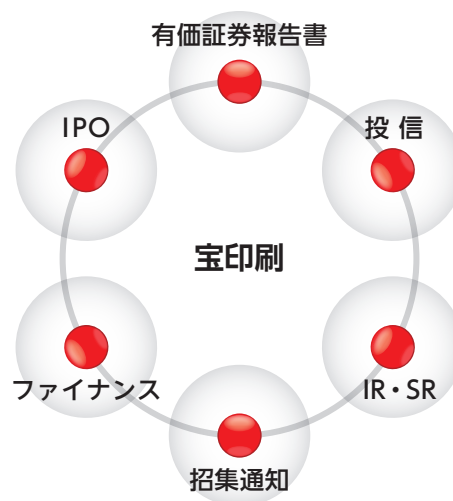


宝印刷は、お得意様のディスクロージャーやIRのお手伝いをする「情報加工」会社です。

当社は、有価証券報告書など金融商品取引法に基づく制度開示（ディスクロージャー）および株主総会招集通知など会社法に基づく制度開示関連書類作成ならびにIR支援サービスのパイオニア企業です。

当社の歴史を振り返ると、1952年の創業以来、その事業領域は拡大を続けており、現在、株式上場申請書類などのIPO（新規上場）関連サービスや投資信託法関連サービスの制度開示サービスに加え、IR（インベスター・リレーションズ）はもちろんのこと、SR（シェアホルダー・リレーションズ）の分野でも、株主総会招集通知をSRコミュニケーションツールとして、読みやすくわかりやすくし、株主通信とのすみわけ等をご提案するなどの自発的開示関連サービスを手掛けています。

当社はディスクロージャーとIRの分野でオンリーワン企業を目指し、ディスクロージャーの国際化に対応した翻訳支援や機関投資家向けIR支援サービスなど、新しいサービスメニューを充実させるとともに、IFRS（国際財務報告基準）への対応ツールやコンサルティング等の取組みを強化し、マーケットシェアの拡大を図っています。



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃よりひとかたならぬご支援を賜りまして、心より厚く御礼申しあげます。

わが国の経済情勢は、東日本大震災からの復興需要が見込まれるものの、欧州の財政危機による海外景気の変調や急激な円高の進行などから先行きは不透明であり、引き続き予断を許さない状況が続くと考えられます。

このような中、私たちは、現在、企業価値の向上と持続的な成長を目指しCSR経営を掲げ、中長期的な経営戦略と営業戦略を策定し、ビジネス範囲の拡大と飛躍のための基盤づくりに取り組んでいます。

CSR経営とは、財務内容だけでなく、環境や社会についてどう考え、どう取り組んでいるのか、ガバナンスについてはどうかなど、株主様、投資家、お客様、従業員、地域社会などのさまざまなステーク・ホルダーの方々との関係をどのように構築していくのかという新たな評価の視点に対応し、経営リスクの低減、環境配慮を通じたコスト削減、顧客からの信頼獲得等による企業評価の向上を目指すものであります。

事業環境は、株式市場の低迷と統廃合等による上場会社数の減少、さらには価格競争による製品単価の下落により大変厳しい環境下にあります。

しかしながら、私たちの強みは、何といたっても創業以来ディスクロージャーのパイオニアとして培ってきた経験やノウハウです。この土台に立ったサービスこそがお得意様のご

支援をいただき、これまでもさまざまな変化をビジネスチャンスに結びつけてまいりました。

現在、株主総会招集通知と株主通信を一括してとらえるSR化の提案や外国株式市場への上場を目指す国内企業への支援ならびに英文のみならず中国語や韓国語等の開示資料の作成支援提供を行っており、新たなビジネスモデルの構築と収益の柱となる新製品の開発を推進しています。

CSR経営のもと、これらを必ず実りあるものとし、ディスクロージャー&IR支援サービスでシェアNo.1を目指し、株主の皆様のご期待に添えますよう、業績回復に向けて役員・社員一同邁進する所存ですので、よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。



あくつ
代表取締役社長 堆 誠一郎

当第2四半期連結累計期間（当第2四半期）業績のご報告

当第2四半期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、サプライチェーンの立て直しや各種の政策効果などを背景に徐々に回復の兆しが見られるようになりました。

しかしながら、欧州債務危機やわが国におけるデフレの長期化等の影響により、景気の先行きは依然として不透明な状況であります。

こうした状況のもと、ディスクロージャー関連事業に関係の深い株式市場は、日経平均株価が8,000円台から9,000円台と低水準で推移しており、また、長引く円高の影響もあり、引き続き厳しい状況であります。

ディスクロージャー関連事業の分野におきましては、長く低迷していたIPO社数の増加が見られたものの、上場会社数の減少に加え企業のコスト削減意識の浸透による価格競争の激化など、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況を踏まえ、当社グループはこれまで培ってきたディスクロージャー支援サービスに関する豊富なノウハウを活かし、IR関連やアジアへの展開など、新たなビジネスモデルを模索し構築を進めてまいりました。

また、コスト削減の一環として、業務効率化を目的としたシステム開発、生産体制の再構築・整備にも取り組んでまいりました。

しかしながら、当第2四半期における当社の業績は、前述した事業環境の影響が強く、結果、当第2四半期の売上高は、前年同期と比べ343百万円（4.8%）減少し、6,854百万円となりました。また、営業利益は、前年同期と比べ370百万円（29.8%）減少し、873百万円となり、経常利益は、前年同期と比べ297百万円（24.5%）減少し、914百万円となりました。四半期純利益は、前年同期と比べ159百万円（24.1%）減少し、503百万円となりました。

通期の業績予想につきまして

平成23年7月1日に平成23年5月期決算短信にて公表した予想数値に変更はございません。売上高は、11,630百万円（前期比2.9%増）、営業利益は、830百万円（前期比0.8%減）、経常利益は、780百万円（前期比0.5%増）、当期純利益は、410百万円（前期比23.1%増）、1株当たり当期純利益は、35円15銭を予想しております。

下期は、IPO社数の増加も見込まれるなど、事業環境は一部に持ち直しの動きが見られるものの、依然不透明であります。

このような環境ではありますが、当社は、お客様のニーズに的確に応えるサービスを提供し、財務面においても、業務の効率化で更なるコスト削減を進め、業績の向上に努めてまいります。

配当金と株主優待制度につきまして

当社は、株主の皆様への長期的利益還元を重要な経営課題の一つと考え、安定配当を行うことを基本とし、企業体質の強化および今後の事業展開を勘案した上で、業績に応じた配当を加味することとしております。

また、株主の皆様への利益還元の一環として、毎年5月末日現在、当社の株式を100株以上所有されている株主様を対象として、所有株式数および所有期間に応じた株主優待を実施しております。

なお、株主優待制度の詳細につきましては、裏表紙をご覧ください。

■ 通期の業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
当期通期予想	11,630	830	780	410	35.15
当第2四半期実績	6,854	873	914	503	43.14
当第2四半期予想	7,190	1,180	1,150	630	54.01

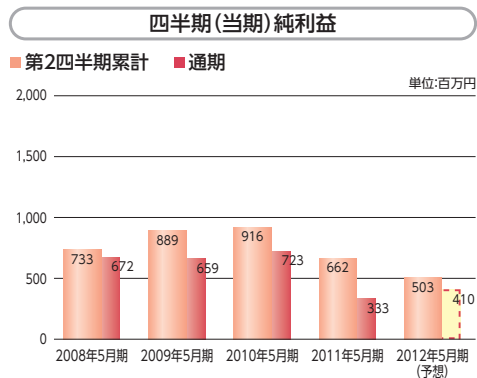
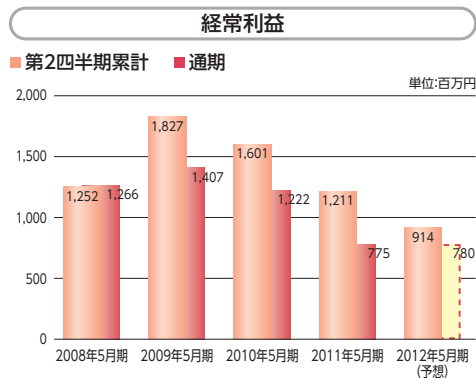
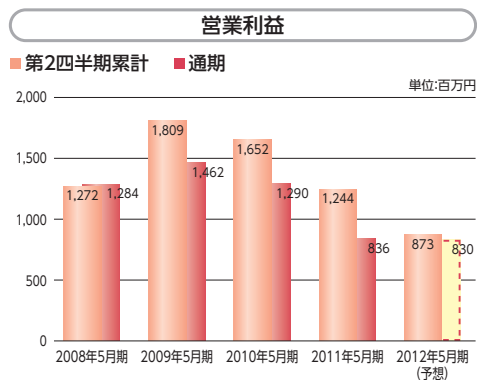
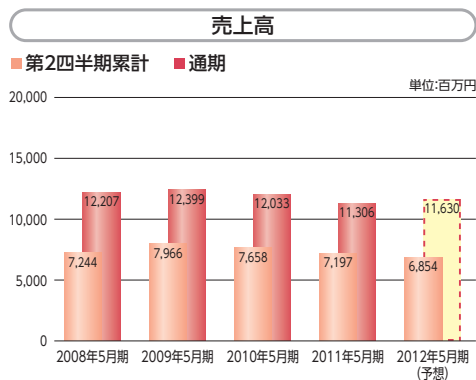
■ 配当金の推移

	第73期 2010年5月期	第74期 2011年5月期	第75期 2012年5月期
中間	12円	12円	12円
期末	13円	12円	12円(予)
合計(年間)	25円	24円	24円(予)

(注) 第73期（2010年5月期）期末配当13円のうち1円は業績連動型配当制度に基づく特別配当金であります。

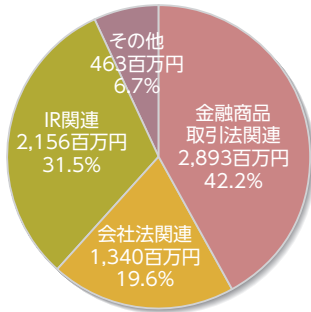
■ 連結業績ハイライト

		第71期中間 (2008年5月期中間)	第72期 第2四半期累計 (2009年5月期第2四半期累計)	第73期 第2四半期累計 (2010年5月期第2四半期累計)	第74期 第2四半期累計 (2011年5月期第2四半期累計)	第75期 第2四半期累計 (2012年5月期第2四半期累計)
売上高	(百万円)	7,244	7,966	7,658	7,197	6,854
営業利益	(百万円)	1,272	1,809	1,652	1,244	873
経常利益	(百万円)	1,252	1,827	1,601	1,211	914
四半期純利益	(百万円)	733	889	916	662	503
1株当たり四半期純利益	(円)	57.04	70.54	73.98	53.50	43.14
総資産	(百万円)	14,510	14,503	14,729	15,059	14,484
純資産	(百万円)	12,372	12,149	12,529	12,724	12,132
自己資本比率	(%)	85.3	83.8	85.1	84.3	83.5





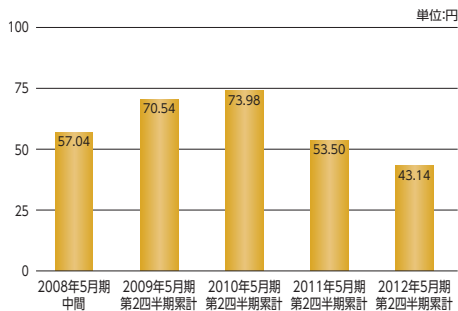
製品区分別売上状況



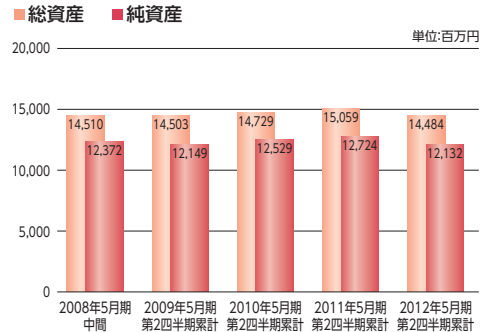
POINT

- 金融商品取引法関連売上
ファイナンスの減少や投資信託目論見書の簡素化の影響などで目論見書の売上高が減少しました。また、四半期報告書の簡素化の影響や上場会社数の減少、競争激化の影響で四半期報告書や有価証券報告書の売上が減少しました。この結果、前年同期比294百万円 (9.3%) 減少し、2,893百万円となりました。
- 会社法関連売上
上場会社数の減少、競争激化の影響により、主に株主総会招集通知の売上が減少しました。この結果、前年同期比42百万円 (3.1%) 減少し、1,340百万円となりました。
- IR関連売上
上場会社数の減少、競争激化の影響により、主に事業報告書の売上が減少しました。この結果、前年同期比41百万円 (1.9%) 減少し、2,156百万円となりました。
- その他売上
ディスクロージャー関連書類の翻訳サービスの受注が増加したことなどにより、35百万円 (8.4%) 増加し、463百万円となりました。

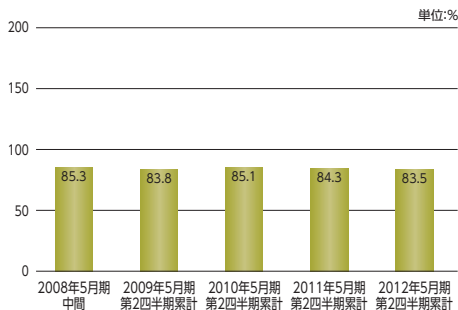
1株当たり四半期純利益



総資産／純資産



自己資本比率



■ アンケート結果のご報告

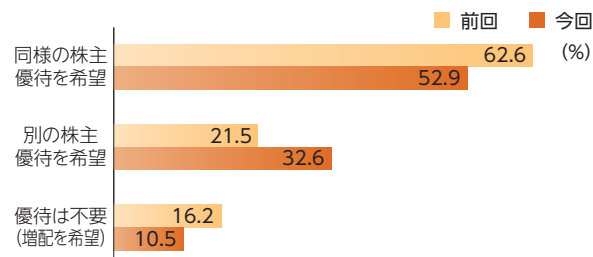


■ 株主アンケート結果報告

2011年5月期株主様ご優待のご案内と同時に実施させていただきましたアンケートに12,387名の株主様からご回答をいただきました。

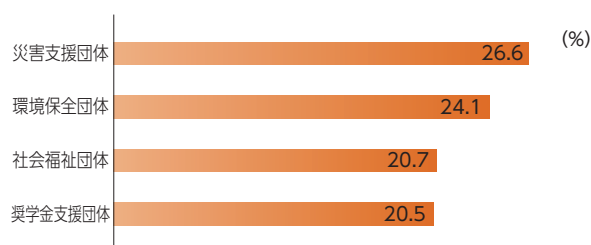
厚くお礼申しあげますとともに、以下にその主な質問項目に対する回答結果をご報告させていただきます。また、株主様からいただきましたご意見・ご要望の一部もご紹介いたします。これらの貴重なご意見を今後の事業活動ならびにIR活動に活かしてまいります。

1 当社の株主優待をどのように思われますか。



「同様の株主優待を希望」が昨年の62.6%に比べ、9.7ポイント減少の52.9%となりましたが、「別の株主優待を希望」が11.1ポイント増加の32.6%となりました。今後も優待品の選定にあたりましては、株主の皆様にご納得いただけるよう、品質等を良く吟味し、選定してまいります。

2 寄付先として重視する団体は。



東日本大震災の影響もあるためか、「災害支援団体」が26.6%と最も多い結果となりました。寄付先や内容につきましては、年度ごとに検討し、株主の皆様にご納得いただけるよう努め、その結果につきましては、第2四半期の株主通信にてご報告させていただきます。

3 株主様からのご意見・ご要望

- ・他社にない取組みをされていることに満足しています。(京都府・男性)
- ・以前からご提案していた招集通知リニューアルを実施していただき、嬉しく思っています。(千葉県・男性)
- ・深刻な経済状況をどのように乗り切るか、知恵を結集し、乗り越えてほしい。(神奈川県・男性)
- ・株主として永くお付き合いしたいと思います。御社の誠意に大いに感激しています。(埼玉県・男性)
- ・社員にとって、よい会社になってください。いい会社でなければ、社員は会社のために働きません。(岩手県・男性)
- ・デジタル化が進む昨今ですが、印刷物の魅力を最大限に引き出して頑張ってください。(山口県・女性)
- ・さすがによくできた招集通知でした。XBRLを活用して分析できる個人向けソフトは開発できないのでしょうか。(大阪府・男性)

この他にもたくさんのご意見・ご要望をいただきました。皆様からのご意見・ご要望を、真摯に受けとめ、今後の経営に活かしていく所存でございます。

平成23年度第10回日本印刷産業連合会会長賞を受賞（2011年9月）

2011年9月20日、自社工場の浮間工場が、社団法人日本印刷産業連合会（以降、日印産連と略）が主催する「2011年印刷文化式典」において、印刷産業環境優良工場として、日本印刷産業連合会会長賞（以降、会長賞と略）を受賞しました。

印刷産業環境優良工場表彰制度は、印刷産業の環境問題に対する取組みを促進し、印刷工場の環境改善および印刷企業に対する社会の一層の支持・理解の獲得を図ることを目的として、日印産連が実施している表彰制度です。今度いただきました会長賞は、経済産業大臣賞（1社受賞）、経済産業省商務情報政策局長賞（2社受賞）に次ぐ賞で、本工場は日本全国の印刷・製本関連会社の工場の中から選ばれ、受賞しました（会長賞は4社受賞）。

本工場が表彰された理由としては、「工場稼働当初からの周辺環境に対するきめ細かい対応、印刷フロア全体のLED照明化、難処理廃棄物のRPF（固形燃料）化をはじめ、広域的環

境対策等全般にわたり、他の工場に比較して高水準である」と、評価されたことにあります。

また、同式典におきまして、当社顧問である野村正道が、印刷関連業界にあって、印刷産業および文化の発展に寄与したと認められる方に授与される印刷文化賞を受賞し、表彰されました。



野村総合研究所（以下NRI）と共同で まったく新しいIRサービスを開始

当社とNRIはe-AURORA XIRCLE（イーオーロラサークル）という新しいASPサービスで機関投資家と企業IR部門の交流を支援します。



e-AURORA XIRCLEは、これまでなかった斬新なアイデアから生まれたIR支援ツールです。機関投資家と企業IR部門がサイト上でSNSサービスの機能を楽しむことができます。

機関投資家向けサービス機能は、機関投資家側が日常業務で必要とする全上場企業の開示情報をリアルタイムでe-AURORA XIRCLEサイト上に取り込み、活用できるとともに、e-AURORA XIRCLEに加入した企業の任意開示情報をも閲覧したうえで、企業側に対してアプローチできるように設計されています。具体的には、決算発表・四半期開示直後のXBRLデータ取り込み機能、蓄積された開示情報検索機能、その他のIRコンテンツのすべてを閲覧・取得する機能です。その他のIRコンテンツは中期経営計画・AR/CSR/ESG報告書等々です。しかも、そういったアクセスの履歴は企業側で一覧として確

認できるので、自社の情報に対するの重要度の判断がわかりやすいという特徴があります。

企業のIR部門向けサービス機能は、「機関投資家検索」「潜在投資家分析」「情報ニーズ分析（足跡分析）」「コンタクト履歴管理」等です。企業側はこれらの機能を使って、機関投資家のプロフィールや運用方針を知り、その組入銘柄情報を把握することで自社株式に興味を持つ可能性がある投資家を探し出すことが可能となります。コンタクト機能では双方から個別ミーティング調整・決定・管理を行います。

本サービスは、2012年1月10日からトライアルを開始し、本格的サービスの開始は同年4月を予定しておりますが、今後も順次サービス内容をバージョンアップし続け、いずれはアジアの企業もメンバーに加えたものとしていく考えです。

シェアードリサーチ社と共同でIR支援サービスを開始

当社は、独立系リサーチ会社である株式会社シェアードリサーチ社と、2011年10月8日に投資家向けリサーチ業務および上場企業向けの高度なIR支援サービスを提供していくために業務提携契約を締結いたしました。

サービス内容は二つあります。一つは上場企業のIR部門を対象としたもので、対象企業の財務や業績動向等の現状を「網羅性」「詳細性」「タイムリー性」「中立性」を持たせたリサーチカバレッジサービス（企業分析レポート作成サービス）です。もう一つは機関投資家の視点でIRツールの改善提案や総合的なアドバイスを行うサービスからなります。

本提携により、当社は互いの専門知識および経験を活用し、顧客の利益となる国内屈指のリサーチ&IRアドバイザリープラットフォームを構築することができます。

当社は、上場企業向けにIRにおける多様なサービスをこれまで提供していましたが、さらに、リサーチ機能の強化を図る目的からリサーチカバレッジサービスの提供をすることといたしました。

（※）シェアードリサーチ社について

バイサイドにおける長年の企業調査・ファンドマネージャー経験を有するジュラヴリョフ・オレグ氏により、2009年2月に東京都文京区白山において設立されたシェアードリサーチ社は、国内有数の企業調査プロバイダーであり、同社のリサーチカバレッジサービスは、機関投資家が企業のファンダメンタルズを分析する際に、必要となる定量分析・定性分析について、最新の情報も踏まえて詳細かつ充実したデータを企業調査アナリストがドキュメンテーションレポートとして作成するサービスです。

レポートは、日本語版・英語版での提供を行っており、1,500社を超える国内外の機関投資家やその他の金融関係者に読まれております。

■ 四半期連結財務諸表 (要旨)

■ 四半期連結貸借対照表

単位：百万円（百万円未満切り捨て）

科目	前連結会計年度末 2011年5月31日現在	当第2四半期末 2011年11月30日現在
資産の部		
流動資産	6,665	7,454
固定資産	7,250	7,029
有形固定資産	4,730	4,650
無形固定資産	810	716
投資その他の資産	1,710	1,663
資産合計	13,915	14,484
負債の部		
流動負債	1,810	2,009
固定負債	325	342
負債合計	2,135	2,351
純資産の部		
株主資本	11,819	12,182
資本金	2,049	2,049
資本剰余金	1,998	1,998
利益剰余金	8,793	9,156
自己株式	△ 1,022	△ 1,022
その他の包括利益累計額	△ 74	△ 85
その他有価証券評価差額金	△ 74	△ 85
少数株主持分	35	35
純資産合計	11,780	12,132
負債・純資産合計	13,915	14,484

POINT

流動資産は、前連結会計年度末に比べて11.8%増加し、7,454百万円となりました。これは、現金及び預金が1,258百万円増加し、仕掛品が556百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3.0%減少し、7,029百万円となりました。これは、ソフトウェアが101百万円、有形固定資産が80百万円それぞれ減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて4.1%増加し、14,484百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて11.0%増加し、2,009百万円となりました。これは、未払法人税等が391百万円増加し、買掛金が258百万円、未払費用が80百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて5.2%増加し、342百万円となりました。これは、退職給付引当金が64百万円増加し、リース債務が37百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて10.1%増加し、2,351百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3.0%増加し、12,132百万円となりました。これは、主に利益剰余金が363百万円増加したことによります。



■ 四半期連結損益計算書

単位：百万円（百万円未満切り捨て）

科目	前第2四半期累計期間 2010年6月1日から 2010年11月30日まで	当第2四半期累計期間 2011年6月1日から 2011年11月30日まで
売上高	7,197	6,854
売上原価	3,870	3,931
売上総利益	3,326	2,922
販売費及び一般管理費	2,082	2,048
営業利益	1,244	873
営業外収益	27	45
営業外費用	60	4
経常利益	1,211	914
特別利益	6	—
特別損失	65	42
税金等調整前四半期純利益	1,153	872
法人税、住民税及び事業税	533	432
法人税等調整額	△ 47	△ 63
法人税等合計	485	368
少数株主損益調整前四半期純利益	667	503
少数株主利益	5	0
四半期純利益	662	503

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円（百万円未満切り捨て）

科目	前第2四半期累計期間 2010年6月1日から 2010年11月30日まで	当第2四半期累計期間 2011年6月1日から 2011年11月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,480	1,498
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 153	△ 63
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 174	△ 175
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,152	1,259
現金及び現金同等物の期首残高	4,120	4,079
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	69	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,342	5,338

POINT

当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比343百万円（4.8%）減少し、6,854百万円となりました。

営業利益は、売上高の減少で売上総利益が減少したことにより、前年同期比370百万円（29.8%）減少し、873百万円となりました。

経常利益は、営業外損益が前年同期の32百万円のマイナスから41百万円のプラスとなりましたが、営業利益が減少したことにより、前年同期比297百万円（24.5%）減少し、914百万円となりました。

四半期純利益は、投資有価証券評価損が前年同期の54百万円から34百万円に減少し、特別損失が減少しましたが、税金等調整前四半期純利益は前年同期比281百万円（24.4%）減少し、872百万円となり、結果、前年同期比159百万円（24.1%）減少し、503百万円となりました。

POINT

営業活動の結果得られた資金は前年同期比17百万円（1.2%）増加し、1,498百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益872百万円、たな卸資産の減少額563百万円であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額258百万円、未払費用の減少額80百万円であります。

投資活動の結果使用した資金は前年同期比89百万円（58.6%）減少し、63百万円となりました。これは、主に有形・無形固定資産の取得による支出74百万円によるものであります。

財務活動の結果使用した資金はほぼ前年同期並みの、175百万円となりました。これは、主に配当金の支払額139百万円によるものであります。

会社情報 (2011年11月30日現在)



会社概要

社名	宝印刷株式会社
設立	昭和35年4月15日 (創業 昭和27年)
資本金	2,049百万円
本社所在地	東京都豊島区高田三丁目28番8号
従業員数	695名 (連結)

製品区分別の主な取扱品目

金融商品取引法関連	有価証券報告書、四半期報告書、有価証券届出書、目論見書、上場申請のための有価証券報告書 他
会社法関連	株主総会招集通知、決議通知 他
IR関連	株主通信 (事業報告書)、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート、CSR報告書、会社案内 他
その他	翻訳、法定公告 他

事業所および工場



取締役および監査役

代表取締役社長	あくつ 堆 せいいちろう 誠一郎
取締役常務執行役員	しま 嶋 だ 田 ひろし 博
取締役常務執行役員	あお 青 き 木 こう 孝 じ 次
取締役常務執行役員	た 田 ひら 村 よし 義 のり 則
取締役常務執行役員	やま 山 ちと 元 かず 和 ひろ 浩
取締役執行役員	つ 津 だ 田 あきら 晃
取締役	し 清 みづ 水 とし 寿 つぐ 二
取締役	たか 高 ほし 橋 あつ 厚 お 男
常勤監査役	あき 秋 やま 山 み き お 美樹男
監査役	おお 大 にし 西 ゆたか 裕
監査役	やま 山 がみ だい ずけ 上 大 介

(注) 1. 取締役のうち清水寿二、高橋厚男の両氏は、社外取締役であります。
2. 監査役のうち大西裕、山上大介の両氏は、社外監査役であります。

グループ会社の状況

株式会社タスク	東京都豊島区高田三丁目32番1号
株式会社スリー・シー・コンサルティング	東京都千代田区麹町一丁目10番地
ディスクロージャー・イノベーション株式会社	東京都豊島区高田三丁目28番8号
一般社団法人日本IPO実務検定協会	東京都豊島区高田三丁目28番8号

株式の情報 (2011年11月30日現在)



株式の状況

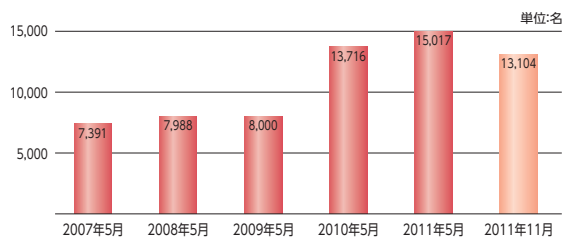
発行可能株式総数	37,000,000株
発行済株式の総数	12,936,793株
1単元の株式の数	100株
株主数	13,104名

大株主

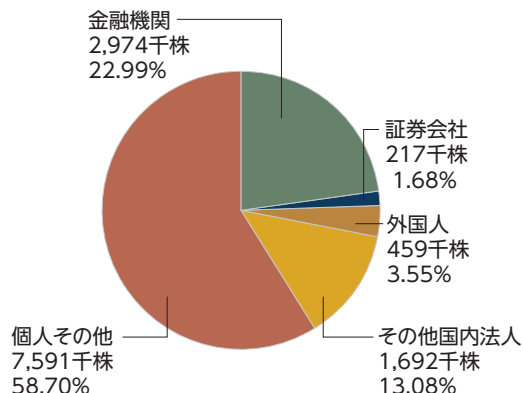
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社野村	632	5.42
株式会社みずほ銀行	562	4.81
株式会社三井住友銀行	476	4.08
野村正道	380	3.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	275	2.36
宝印刷社員持株会	247	2.12
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ノーザン トラスト ガンジー ノン トリーティー クライアンツ	225	1.92
中央三井信託銀行株式会社	169	1.45
明治安田生命保険相互会社	168	1.44
日本生命保険相互会社	160	1.37

(注) 1. 自己株式1,273千株を保有しておりますが、大株主から除いています。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

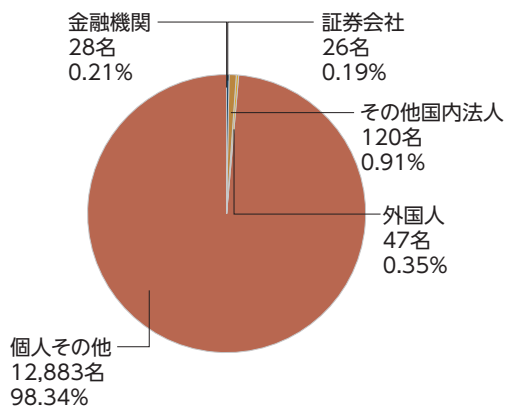
株主数の推移



所有者別株式分布



株主構成



■ 株主メモ

事業年度	6月1日から翌年5月31日まで		
定時株主総会	8月		
配当の基準日	期末配当	5月31日	
	中間配当	11月30日	
株主総会の基準日	5月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日		
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号		
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)		
(電話照会先)			
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店		
手続のお申出先について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 未払配当金の支払のお申出先 株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。 2. 住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。 3. 配当金計算書について 配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規程に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。 なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払の都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。 		
公告方法	電子公告により当社ホームページ (http://www.takara-print.co.jp/) に掲載いたします。 ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。		



<http://www.takara-print.co.jp/>

宝印刷ってどんな会社？
～ 3分で分かる宝印刷 ～

好評につき、是非ご覧ください。

■ 株主優待制度

贈呈対象株主様	毎年5月31日（決算期）の最終の株主名簿に記載または記録された株主様		
贈呈基準および贈呈内容	当社株式の所有期間	所有株式数	贈呈内容
	3年未満所有の株主様	100株以上2,000株未満	1,500円コースの選べるギフト
		2,000株以上	3,000円コースの選べるギフト
	3年以上継続して所有の株主様	100株以上2,000株未満	2,000円コースの選べるギフト
		2,000株以上	3,500円コースの選べるギフト
	<p>*選べるギフトとは、当社が当社のお客様に提案している「新しいデパート提携型の株主優待サービス」です。</p> <p>*優待品を期限までにお申込みいただかない場合または寄付を選択された場合には、当社より環境保全や社会福祉支援等の社会貢献活動団体へ寄付させていただきます。なお、本年度については、その一部を東日本大震災による被害が甚大な岩手県、宮城県、福島県の3県に寄付させていただきました。</p>		
贈呈時期	8月に申込み用紙をお送りいたします。		



■ 「ジャパニーズズインベスター」

個人投資家と企業を結び、日本初の個人投資家向けIRマガジンとして年4回発行。証券会社等にて無料配布。
お申込は次のアドレスから。

<http://104ka.net/>

 **宝印刷株式会社**

本社 東京都豊島区高田三丁目28番8号
TEL:03(3971)3101 FAX:03(3971)3140

 **UD
FONT**

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

 **VEGETABLE
OIL INK**